



A-1	書籍名	日本語の謎を解く		
著者	橋本陽介	発行元	新潮社	
ISBN	978-4-10-603784-9	定価	1,300円+税	
推薦者(所属州)	エッカー治美 (バーデン=ヴュルテンベルク州)			
<p>著者はほぼ独学で7カ国語を習得し、中国語を主体とした文体論・比較詩学の専門家。高校生が持つ言語に対する素朴な疑問に執筆時点における言語学の最新成果を踏まえながら丁寧に答えている。</p> <p>たとえば日本語教育でも教え方が議論になる、「は」と「が」。第6章―「は」と「が」そして主語の謎―で多岐にわたり取り上げられている。各項目を挙げると、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校文法の成り立ち ・「格助詞」の「格」の意味 ・「私は食べる」と「私が食べる」の違い ・「文の主題」とは一体何か ・「私が」は「私は」よりも「私」が強調されているように感じるのはなぜか ・「は」と「が」は主語を表しているのか ・日本語には主語はないのか ・日本語はなぜ主語を「省略」できるのか ・同じことを表すのに日本語では能動態を使い、英語では受け身を使うのはなぜか ・「～が好き」の「～」は目的語なのに主語になっているのはなぜか。 ・古文では「が」があまり使われないが、いつから「が」が使われ出したのか。 <p>日本語の起源から、音声・語彙・文法・表現まで、73の疑問に対する丁寧な説明。読んでいて、思わず「なるほど、そういうことだったのか」とつい口に出してしまう、面白くためになる内容です。</p>				

A-1	書籍名	心ときめくオキテ破りの日本語教授法		
著者	五味政信・石黒圭	発行元	くろしお出版	
ISBN	978-4-87424-696-2	定価	2,200円+税	
推薦者(所属州)	石倉佐和子 (バーデン=ヴュルテンベルク州)			
<p>まず、「心ときめく」で始まる本のタイトルに心惹かれました。「心ときめく」授業がすることができたら授業の参加者だけでなく、自分自身もなんて幸せなんだろう。ときっと思うに違いないので。この本は大きく4章から成り立っています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教師論 2. 表現論 3. 感情論 4. 活動論 <p>ともすれば、与えられた教科書に沿うだけの授業になりがちですが、この本全体の随所にちりばめられている「ときめき POINT」が、自分自身の授業を振り返るきっかけを与えてくれることになりました。</p> <p>上記で紹介した各論の中で、さらにいくつかの章から成り立っている構成になっています。その各章の導入は、私たち日本語教師が授業を行う際にぶつかりがちな悩みとその回答。悩んでいるのは自分だけではない、と勇気づけられる文言も多く、その回答の中には自分の授業にすぐに取り入れてみたい、と思う具体的な教室活動の例も数多く掲載されていて、大変参考になると思います。</p> <p>授業に参加してくれる皆さんの笑顔を思い浮かべながら、これからも前向きに試行錯誤に取り組もう。と思わせてくれる一冊です。</p>				

A-1	書籍名	初級 日本語文法と教え方のポイント		
著者	市川保子	発行元	スリーエーネットワーク	
ISBN	978-4-88319-336-3	定価	2,000 円+税	
推薦者（所属州）	ローゼンベルグくみ子（バーデン＝ヴュルテンベルク州）			

この本では初級教科書で扱われる文法がほぼ網羅されており、「その文・表現をどういう状況・文脈で使うのか」が大変わかりやすく書かれている。文法項目ごとに学習者が難しいと感じる点、よく出る質問や誤用を取り上げながら、似たような表現を比較したり多くの例を示したりして解説してあるので、こういった場面で使う表現なのか、またそれをどのように学習者に説明したら良いのか、知識を整理して理解を深められるような内容となっている。また「指導法あれこれ」「指導ポイント」が文法項目ごとにまとめてあるので、効果的で具体的な指導法のヒントを得ることができる。

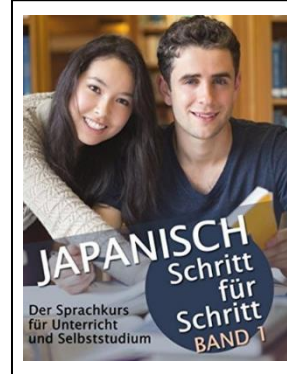


これは私が日本語を教え初めて最初買ったと言っても良いぐらいの本なのだが、それから何度も疑問が出て来る度に手に取って読み返している。特に役立っているのは「格助詞」、「は」と「が」、「名詞節～こと・～の」、「～ないで・～なくて」、「～たら・～と・～ば・～なら」などだ。わかっているつもりの文法でも、改めて読んでみると新たに気付いたり腑に落ちたりする点も多く、これからも度々助けてもらうことになりそうな心強い一冊だ。

A-1	書籍名	Japanisch Schritt für Schritt Band1&2		
著者	Martin & Maho Clauß	発行元	BoD-Books on Demand	
ISBN	(Band1) 978-3-7322-9974-4 (Band2) 978-3-7386-3549-2	定価	(Band1) 25 ユーロ (Band2) 22 ユーロ	
推薦者 (所属州)	ヘルゲット布紀子 (バーデン＝ヴュルテンベルク州)			

ドイツ語話者を対象とした日本語教科書。2巻を通して全50課で日本語能力検定試験5級を目指すレベルとなっている。文字はひらがな、かたかな、105の漢字が提出されている。ウェブサイトから各課のテキスト音声データと補足練習問題がダウンロードできる。

まず、初めて日本語を学ぶ学習者のために、どれだけの人が日本語を使用し、それはどのような体系の言語であるか、中国語との語彙の関係などが紹介されている。



〈文字〉

Bund1：各課でひらがなを5文字ずつ、その後漢字を3文字ずつ計45文字

Bund2：カタカナを5文字ずつ、漢字を3～5文字ずつ計60文字

〈良い点〉

- ・日本語を外国語として自ら学んだ著者が、ドイツ語話者にわかりやすく文法説明を記述している。特に学習者がつまづきやすい文法項目（動詞や形容詞の活用）は視覚的にわかりやすく説明してある。
- ・各課には様々な文法練習があり、文法項目の定着を試みている。ドイツ語話者が間違えやすい音韻問題や、語彙などの練習が取りあげられている。これは日本語母語話者である教師が気づきにくい点でもあると思うので有用である。

〈改善が期待される点〉

時々不自然な日本語表現が出てくる。（例：「私、一生犬を食べた事ありません。」→今までに犬は食べたことはありません、の意味か）文法練習に焦点をあてるあまり、使用される文に自然さが欠けることがある。（例：「Vないで」の練習で、「朝、起きないでください。」など）。音声データの会話部分も女性一人の声なので、会話が棒読みのようになっていたり、全体を通して共通語ではないアクセントで話されている単語が多く、教師にとっては少し気になるかもしれない。ただ、学習者にとっては必ずしもそれが学習の妨げになるとは限らない。

独学で日本語を学んだり、授業以外で日本語の文法を振り返ったり学んだりするのに適している教材である一方、他人とのコミュニケーション活動が取り入れられていないので、教師はこの教材以外の会話活動や実際の自然な日本語使用場面を積極的に取り入れる必要がある。

文法説明が簡略化されているようにも感じるが、各課で取り上げられる文法項目は多すぎることなく初級日本語を学ぶにあたり学習者にとっては負担のないわかりやすい文法説明になっていると思う。VHSの学習者のように、日本語学習に限られた時間しか割けず、次の授業まで間があくような場合に自分で既習事項を復習するためには、よい教材であるので是非紹介したい。